

南ア月報

(2015年8月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- ANC女性同盟全国大会の開催
- ズマ大統領による施政進捗報告
- ANC全国評議会の日程及び討議資料の公開

【外交】

- バシール・スーダン大統領の南ア出国に係る南ア政府の主張
- ズマ大統領の第35回SADC首脳会合出席
- ラマポーザ副大統領の訪日

【経済】

- 南ア・インフレ率の上昇
- 南ア・経済成長率の低下
- メドゥピ6号機引き渡し式の開催

1 内政

●ANC女性同盟全国大会の開催

6日より、ANC女性同盟の全国大会が約2年遅れで開催された。政策文書では経済界における女性リーダーの不足など南アの女性が直面する状況が主な論点だが、注目点は2017年のANC全国評議会を見据えた政治的議論であった。大会中には幹部選挙が行われ、前任のモチエハ基礎教育大臣に代わりドラミニ社会開発大臣が総裁職を務めることとなった。ドラミニ大臣は、ズマ大統領に近いとされるマブザ・ムプマランガ州首相、マシュマペロ北西州首相及びマガシュレ自由州首相ら(通称プレミア・リーグ)の支持を得て当選している。総裁就任後、ドラミニ大臣は、次期大統領には女性が選ばれるべきとの主張を強めており、その候補としては、ズマ大統領の元妻であるドラミニ＝ズマ現AUC委員長や、ムベテ現国民議会議長の名が挙がっている。

●ズマ大統領による施政進捗報告

11日、ズマ大統領は、本年2月に行われた施政方針演説で発表された、国家開発計画(NDP)に掲げられた経済成長の達成に向け政府が優先する9つの政策等に関して、進捗状況を報告する記者会見を行った。会見においては、昨年の経済成長率が1.5%にとどまっている点に関し、昨今の電力不足が南ア経済最大の障害であり、経済成長率に1%近い影響を与えていると推定した上で、電力不足の解消、優先政策の履行に伴い、今後3年間で3%の成長を予測していると主張。製造業は成長していると述べ、同分野における黒人企業家の育成の促進を掲げた他、原子力発電建設の計画を含むエネルギー安全保障や、労使関係の正常化、失業対策等の重要性について語った。

●ANC全国評議会の日程及び討議資料の公開

17日、ラデベANC政治部長・大統領府大臣は第4回ANC全国評議会の日程及び討議資料の発表を行った。同評議会は10月9-12日にかけて、ハウテン州ミッドランドにて開催予定で、全国のANC支部代表、全国執行委員会(NEC)及び州執行委員会(PEC)メンバーから成る党幹部、女性同盟・青年同盟・退役軍人同盟代表、同盟パートナー代表、議会委員会委員長、国有企業・ビジネス関係者等の参加が見込まれている。討議資料は224ページに及び、2012年党全国大会の決議に即して、アパルトヘイトから民主化を達成した第一期に次ぐ第二期経済・社会改革の推進に向け、雇用創出、地方改革、土地改革、教育、保険、犯罪汚職対策といった優先分野を中心に実施してきた施政の達成度合いについて振り返ると共に、議題の特定と対処方法について議論している。

2 外交

●バシール・スーダン大統領の南ア出国に係る南ア政府の主張

14日、プレトリア高等裁判所は、本年6月15日に下されたバシール・スーダン大統領の逮捕を命じる判決を不服として上告を求めている南ア政府からの申請について、判断を留保することとした。留保の期限は明示されていない。南ア政府の法定代理人は、南アの国内法上、政府は他国の国家元首を逮捕する義務を負っておらず、バシール大統領への逮捕命令は、南ア政府の法律上の義務、南ア憲法、憲法裁判所の権限すべてに反するものであると主張。6月15日の判決をこのまま放っておけば、逮捕される可能性のある他国の国家元首は二度と南アを訪れることはないであろうと述べ、同判決の持つ南アの外交関係への影響を指摘した。南アは国際刑事裁判所(ICC)加盟国であり、ローマ規程に則りバシール大統領を逮捕する義務があったとされている。

●ズマ大統領の第35回SADC首脳会合出席

17-18日、ズマ大統領は、第35回SADC首脳会合出席のためボツワナを訪問した。本会合は「天然資源の転換及び人的資源の改善を通じたSADC経済の産業化加速」というテーマの下開催され、主にSADC産業化戦略、ロードマップ及び改訂版地域指標開発戦略計画(RISDP2015-2020)について議論がなされた。本会合において、ボツワナがジンバブエからSADC議長国の座を、モザンビークが南アからSADC政治・防衛・安全保障機構議長国の座を、それぞれ引き継いだ。本会合は、地域の平和、安全保障、安定の現状について見直しを行い、特にレソト情勢について特別な注意が払われた。ズマ大統領は、ラマポーザ副大統領、マシャバネ国際関係・協力大臣、デイビス貿易産業大臣、マシュロボ国家安全保障大臣、ジョナス財務副大臣らを率いて本会合に参加した。

●ラマポーザ副大統領の訪日

24-25日、ラマポーザ副大統領は日本を訪問した。訪問にはパンドール科学技術大臣、ムフエクト国際関係・協力副大臣、マシナ貿易産業副大臣、ツエレ農林水産副大臣らが同行した。滞在中は、安倍総理への表敬や、麻生副総理、スリランカ和平に取り組む明石日本政府代表との会談、谷垣自民党幹事長や経団連関係者との懇談等を行った他、日本科学未来館を訪問し、ロボット工学、宇宙、海洋、自動車等の分野における日本の知見やイノベーション技術に直に触れ、トヨタでは燃料電池自動車を試乗した。ラマポーザ副大統領は訪問後のインタビューにおいて、日本は投資のみならず南アの開発を支援してくれる国である、日本は南アを始め多くのアフリカ諸国の若者を日本に招き訓練しており、彼らはいずれ自国に戻りその発展に寄与するであろう、訪問中は南ア及び日本のビジネス界とも時間を共有したが、両国のビジネスマン同士が協議や交渉を始めるといった進展を目の当たりにすることが出来喜ばしい等述べた。

3 経済

<経済指標>

●南ア・インフレ率の上昇

南ア統計局によると、7月のインフレ率は対前年比で5%上昇し、6月の小売売上高は対前年比で3.5%上昇した一方で、6月の消費者支出は依然として弱く、インフレ率の上昇により高まる利上げへの期待に対し、待ったをかけている。

●南ア・経済成長率の低下

南ア統計局によると、今年の第2四半期の経済成長率は前年比1.3%低下した。頻発する停電と鉱業・製造業の低迷による需要の低下、干ばつによる農作物の生産量の減少が影響した。経済成長率の低下により、南ア準備銀行はさらなる利上げを延期する必要があるとあり、また、南ア財務省は経済へのダメージを回避すべく中期的な増税を先送りすることになるだろう。これを受け、Nomura Internationalのエコノミストは、今年のGDP成長率を1.9%から1.6%へと下方修正した。

<出来事>

●メドゥピ6号機引き渡し式の開催

計画より4年遅れでメドゥピ6号機が運転を開始し、ズマ大統領も出席した引き渡し式典が30日に開催された。同式典において、ズマ大統領は、南ア経済は「病氣」に罹っており、ビジネス界と労働者に対して、利益や賃上げよりも雇用を守ることを優先するよう述べた。ズマ大統領は雇用が失われた時は、政府は介入しなければならないが、政府の役割は「国を動かすこと」であり、経済を動かすのはビジネス界の責任であると述べた。同大統領は、現在の経済状況下で、もし民間セクターが自分の利益だけを追求するのであれば、それは彼らが現状を「気にしていない」ことになるとも付け加えた。

4 広報・文化

●廣木大使のラジオ局出演

6日、広島原爆投下70周年に際し、廣木大使が当地ラジオ局3局(Radio Sonder Grense、SAFM、Radio 702)に出演し、広島における原爆投下について、日本人が抱く思いについて語るとともに、軍縮・不拡散分野における日本の取組等について紹介した。

5 警備

●急増する現職警察官による汚職

前月、現職警察官による不祥事案について触れたが、今月15日付当地紙サタデイ・スターにおいては、『Corrupt officers fleece tourists』と題する悪質警察官の実態が報じられた。外国人旅行者等をターゲットとして急増する不正交通取締りを批判する内容であるところ、O.R.タンボ国際空港周辺のみならず、西ケープ州のガーデン・ルートやクルーガー国立公園へ通じるハイウェイ上においても同種事案が頻発しているとして広く注意を呼び掛けている。奇しくも賄賂目当ての現職警察官による不正交通取締事案が、空港からの追尾強盗に次ぐ“トレンド(強盗の手口)”として認識されるに至っている

(了)